

ひだまり読書

一冊読書人

いっさつどくしょにん

『風立ちぬ』 堀辰雄 著

『新選名著複製全集近代文学館〔36〕風立ちぬ』 名著複製全集編集委員会／編集

日本近代文学館(918.6-シンセ)

『風立ちぬ』は、昭和十三年(1938年)に刊行された堀辰雄の代表作です。主人公と胸を患う恋人・節子の療養所での生活を中心に描いていますが、この作品の背景には、堀自身が経験することとなった、婚約者・矢野綾子の最期の日々があります。

死の影を感じながら生きる節子と、彼女との残り少ない時間を感じながらも自分たちの生きる「今」の美しさを見つめる主人公。作中、二人が療養所周辺の自然を眺めるシーンが何度となく登場しますが、そこに描かれる風景は殊更鮮やかに表現され、読む者の胸を打ちます。

—師・芥川龍之介—

芥川龍之介は、堀辰雄にとって文学と人生の両方における師といえます。

大正十二年(1923年)、室生犀星に師事した堀は、室生を通じ、既に有名作家であった芥川との出会いを果たしました。自身の二編の詩を見せ、芥川から感想と激励の記された手紙をもらったり、室生や萩原朔太郎、片山広子らと共に軽井沢で山登りや月見をして楽しんだり、公私にわたり交流を深めます。

しかし、昭和二年(1927年)、芥川は自らの命を絶ってしまいました。その死は、堀に衝撃を与えると同時に、芥川の弟子である自らが今後どうあるべきか、どう生きるべきかを、自問させることにもなりました。

関連本



- ◆『物語の娘 宗瑛を探して』
川村 湊／著 講談社(910.2-カワム)
- ◆『美しかれ哀しかれ』
堀 辰雄／著 大和出版(914.6-ホリ)
- ◆『作家の自伝 52 堀辰雄』
佐伯 彰一／監修 松本 健一／監修
日本図書センター(910.2-サツカ)

(参考文献)

- 『堀辰雄の周辺』堀 多恵子／著
角川書店(910.2-ホリタ)
- 『堀辰雄と昭和文学』
竹内 清己／著 三弥井書店(910.2-ホリタ)
- 『芥川龍之介と堀辰雄 信と認識のはざま』
影山 恒男／著 有精堂出版(910.2-アクタ)

(案の1)



小耳に雑学



橋の入口と出口

橋の名前が読めないことってありませんか。そんな時は橋の出口のプレートを見てみましょう。

国道に起点と終点があるように、橋にも起点と終点があります。橋の入口には漢字、出口にはひらがなで橋の名称を刻んだ橋名板^{きょうめいばん}というプレートが取り付けられています。橋名板の多くは道路の起点側から見て左側に漢字表記の橋名、右側に交差する河川などの地名物が、終点側から見て左側にひらがな表記の橋名、右側に竣工年月が記されています。

| | | |
|-----|---------|---------------|
| 起点側 | 橋に面して左側 | 漢字表記の橋名 |
| | 橋に面して右側 | 河川名（鉄道）などの地物名 |
| 終点側 | 橋に面して左側 | ひらがな表記の橋名 |
| | 橋に面して右側 | 竣工（完成）年月 |

市街地から飯坂学習センターへ向かう時の医王寺橋には、入口左側に「医王寺橋」、右側に「小川」が表記され、橋を渡り終え振り返り見ると左側に「いおうじはし」、右側に「昭和六三年八月竣工」と記されています。「いおうじばし」と読むにも関わらず「はし」と濁点を抜くのは、水が濁らないようにとの願いから慣習的に行われてきたものといわれています。

〈参考文献〉『日本の橋』 五十畑 弘／著 ミネルヴァ書房（515-イソハ）
『よくわかる最新「橋」の基本と仕組み』
五十畑 弘／著 秀和システム（515-イソハ）
『物語日本の治水史』 竹林 征三／著 鹿島出版会（517-タケバ）

Y・A

ヤングアダルト—大人でも子どもでもない世代—へおすすめする本

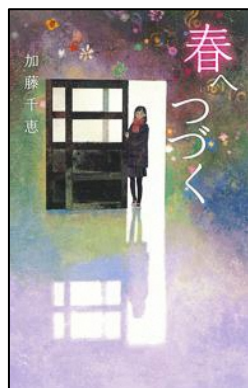
『春へつづく』

加藤 千恵／著

ポプラ社（Y913-カトウ）

卒業式の日の朝、「あかずの教室」で願い事を唱えると叶えられる、というジンクスを持つ中学校を舞台にした連作短編集です。中学生たちが感じる日々の小さな喜びや落胆、そして彼らを見守るコンビニ店員や学校司書の悩める胸の内が、ジンクスを中心に繋がります。

「学校」という特別な場所で、長い時間をかけて築かれたジンクス。登場人物たちは、何を願うのでしょうか。



(案の1)

大人でも楽しめる子どもの本

『ピアスの星』

赤羽 じゅんこ／作 t a m a o／画

くもん出版 (Y913-アカハ)

「わたしの将来」という作文の課題を出されたハミ。頭に浮かぶのは、作詞家になるという夢を持った友達のサヤのこと。人づきあいが苦手なサヤは不愛想な性格で、あまり学校に来ません。けれど、自分の心に正直なところがサヤの良さだと、長い付き合いのハミだけは知っています。

悩みを抱えたハミとサヤが、すれ違いながらも成長する姿が魅力的な物語です。



『レイン 雨を抱きしめて』

アン・M. マーティン／作 西本 かおる／訳

小峰書店 (Y93-マティ)

ローズは高機能自閉症の小学校5年生の女の子。強いこだわりがあってルールを曲げられないローズは、学校や家での生活に苦しさを感じています。そんなローズの心の支えは、父親が拾ってきた犬のレインでした。しかし、ハリケーンが来た日、レインは行方不明になってしまいます。叔父と一緒に探す中でレインの秘密を知ってしまい……。



『いつもちこくのおとこのこ —ジョン・パトリック・ノーマン・ マクヘネシー—』

ジョン・バーニンガム/さく たにかわ しゅんたろう/やく

あかね書房 (E-バニン)

どうしても遅刻してしまう少年と、遅刻の理由を全く信じず、厳しい罰を与える先生。道徳の教訓絵本ではなく、クスリと笑える絵本です。子どもの話を聞こうとしない、型通りの考え方しかできない大人に、ちょっと立ち止まってほしい1冊です。

『おもいで星がかがやくとき』 刀根 里衣／著

NHK出版 (E-トネサ)

『ペーパープレーン』

スティーブ ワーランド／作 井上 里／訳

小峰書店 (Y93-ワラン)

『なんでやねーん！ おしごとのおはなし お笑い芸人』

安田 夏菜／作 魚戸 おさむ／絵

講談社 (B77-ヤスタ)

ふくしま伝書鳩 (案の1)



<春の訪れ 種蒔きうさぎ>

福島県と山形県の境にまたがる標高2000メートル前後の十数の山々が続く吾妻連峰。その山々の一つ吾妻小富士の山裾には4月下旬から5月上旬になると、うさぎの形の雪形が姿を現します。麓の福島市からよく望遠でき、稲の苗づくりの種子を蒔く時期と重なるため「種蒔きうさぎ」と呼ばれ親しまれてきました。「種蒔きうさぎ」には由来を語る昔話もあります。

昔、小さな田畑を作って暮らしていたみなしごが、山で親子のうさぎを拾ってかわいがっていました。日照りが続き、水不足で困っていた村人が雨ごいをしていると、2羽のトンビがうさぎをつかんで飛んでいってしまいました。飛んでいった先をみると吾妻小富士にうさぎの雪形が現れ、うさぎが山神になったと感じたみなしごは、この山神に雨乞いをしたところ岩室から水が湧きだしました。この湧き水により、村は秋に豊作となり皆が裕福となりました。

この昔話の発祥の地として蓬萊地区には「吾妻山種蒔き兎伝説発祥の地」の碑が建立されています。

福島市の観光をPRするキャラクター「ももりん」は吾妻小富士のうさぎの雪形をモチーフに平成8年に誕生しました。公募で付けられた愛称は、福島特産の「モモ」と「リンゴ」が由来となっています。観光PRのイベントや市内循環バスの名称、移動図書館しのぶ号の外装など市内のさまざまな場面で活躍し、市民に広く親しまれています。

(参考文献)『すき!すき!ももりんファンブック』(K318-ススキ)

『ふくしまの民話 18話』 ふくしま民話茶屋の会/編集 福島民話茶屋の会 (K388-フクシ)

『雪形の話 吾妻小富士のウサギガタ』 作田 哲啓/著 作田哲啓 (K451-サクタ)

* * * * * おはなしかいのお知らせ * * * * *

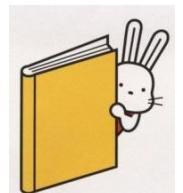
図書室では毎月おはなし会を開いています。ご家族みなさんでお越し下さい。

おひざにだっこのおはなしかい

対象：0～3歳の赤ちゃんとその保護者
日時：毎月第2木曜日 10：30～
内容：絵本の読み聞かせ・手あそび・
わらべうた など

おはなしひろば

対象：4歳～小学生
日時：毎月1回 11：00～
内容：絵本の読み聞かせ・テーマにあわせた本の
紹介、手あそび・わらべうた・工作 など



❖講座などは随時、図書室内の掲示板・チラシにてお知らせしています。

ひだまり読書 第14号 2018年5月発行

編集・飯坂学習センター図書室

〒960-0201 福島市飯坂町字銀杏6-11 TEL024-542-2122

発行・福島市立図書館

〒960-8018 福島市松木町1-1 TEL024-531-6551

ホームページ：<http://www.city.fukushima.fukushima.jp/tosyo-kanri/kanko/toshokan/>

携帯ホームページ：<http://www.city.fukushima.fukushima.jp/mobile/library/index.html>



携帯サイトからも
蔵書検索ができます。

